令和8年度

学力向上を図るための全体計画

小５２　練馬区立大泉第六小学校

関係法規
- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・都、区教育委員会の教育目標・指導の重点

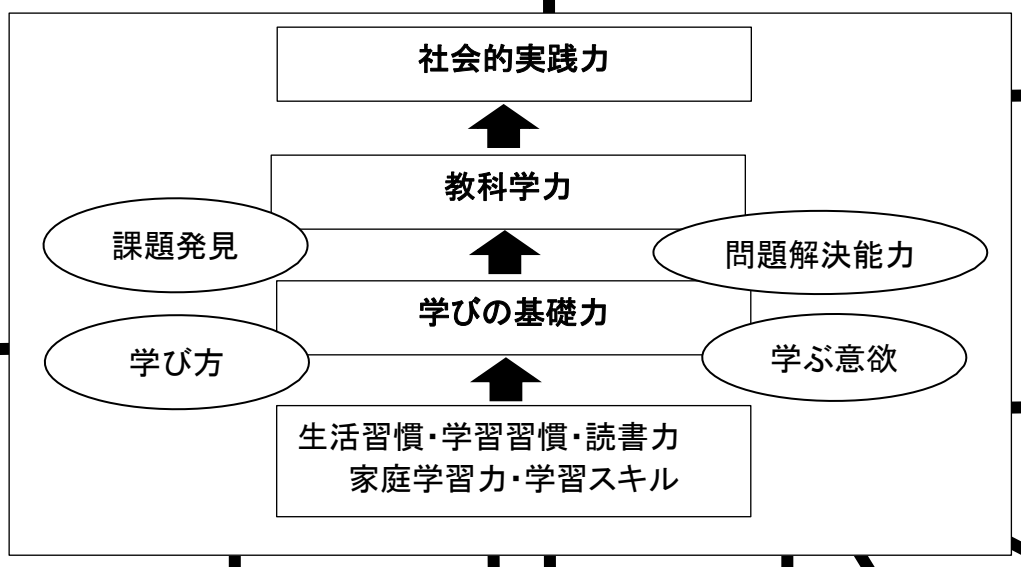
学校教育目標

人間尊重の精神を尊び、多様な人々と協働して、よりよい社会の創り手となるように、心身共に健康で、人間性豊かな知・徳・体の調和のとれた、国際社会に寄与できる児童の育成を目指し、次のような教育目標をかかげる。

〇すすんで学ぶ子　〇思いやりのある子　◎たくましい子

児童の実態
- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される児童像

学校経営方針
1. ①　確かな学力向上
2. ②　体力向上・健康の保持増進
3. ③　ICT教育の推進
4. ④　小中一貫教育・幼保小の連携
5. ⑤　学校 2020 レガシーの構築に向けた取組の推進



道徳科の指導の重点
- ・自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をする態度を養う。
- ・積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養う。
- ・正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないと判断したことは行わないようにする態度を育てる。
- ・自律的で責任のある行動をすることができるように、自由な考え、行動のもつ意味および大切さを多面的・多角的に理解させる。

外国語活動の指導の重点
- ・児童が主体的に自分の思いを伝えられる場の設定を工夫する。
- ・ALTと連携し、児童の実態に即した活動を行う。

特別活動の指導の重点
- ・集団の一員としての自覚をもち、仲良く助け合おうとする人間関係を築く。
- ・児童の発想による活動を促し、自主的・自発的態度を身に付ける。

総合的な学習の時間の指導の重点
- ・自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。
- ・他者と協同して課題を解決したり、地域社会との関わりを考えて生活したりする。
- ・学習を振り返り、学習や生活に生かしたり、自己の生き方を考えたりすることができるようにする。

（国語科）
言語感覚を養い、適切に表現する能力を伸ばす。

（社会科）
地域社会から学ぶ体験的な学習と問題解決的学習指導を工夫する。

（算数科）
見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力と生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

（理科）
観察、実験の結果を考察する学習活動を充実させ、科学的な思考力・表現力を育てる。

（生活科）
具体的な活動や体験を通して必要な習慣や技能を身に付け、自立への基礎を養う。

（音楽科）
音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

（図画工作科）
造形的な活動を通して豊かな心と表現する力を育む。

（家庭科）
家庭生活を創り出すための基礎的な知識や技能の習得を図る。

（体育科）
楽しく明るい生活を営み、運動に親しむ資質や能力を育てる。

（外国語科）
コミュニケーションを図る基礎となる資質や能力を育てる。

進路指導の重点
- ・児童一人一人に、自他への関心や生きる喜びをもたせ、適切なキャリア教育を実施する。
- ・近隣の幼稚園や保育園と連携し、幼・保・小の円滑な連携を推進する。

検証
- ・児童の学力調査の結果を分析し、指導上の課題を明らかにする。
- ・保護者等による外部評価を分析する。

生活指導の重点

3つの「あ」の励行
「あいさつ」
「あつまり」
「あとしまつ」
いじめ・体罰の根絶
「大六スタンダード」の定着
〈週１回生活指導連絡会〉
〈学期１回生活指導全体会〉
〈特別支援校内委員会〉
〈スクールカウンセラー〉
〈心のふれあい相談員〉

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
〇「大六スタンダード」学習規律の定着 〇主体的に伝え合う授業の実践 〇算数習熟度別少人数指導（全学年） 〇教科担任制を活用した授業の質の向上 〇外国語・外国語活動・TT指導の充実 〇体験活動・言語活動の充実 〇ICT活用の推進（タブレットPC・実物投影機・デジタル教科書・電子図書館等） 〇学習サイクルの定着（めあて→学習活動→まとめ・振り返り）	〇年間指導計画の工夫 〇学校行事計画の工夫 〇週時程の工夫 〇読書月間・旬間（６月）（１０月）（２月） 〇図書館活用年間計画の工夫 〇なわとび旬間 〇クローバー遊び 〇体力向上旬間 〇ペースランニング旬間 〇外国語活動（１～４年） 〇あいさつ運動	〇楽しんで運動する児童の育成～体育授業の指導の工夫を通して～（R7） 〇年3回の授業研究 〇職員研修内容の重点化（〇アレルギー対応） 〇組織的な指導力の向上 〇課題探究型の学習の推進 〇地域との連携 〇区・都研究会への参加 〇研修報告の場の設定 〇教員同士によるOJT研修（年８回）	〇講師・各教員が連携し評価の共通理解を図る 〇小テストの工夫 〇ポートフォリオ等個々の学習経過の記録 〇学習の振り返りの工夫 〇学校評議員・保護者・児童による意識調査	〇方面別集団下校 〇自転車点検・安全教室 〇道徳授業地区公開講座 〇セーフティ教室 〇情報モラル教育推進事業 〇薬物乱用防止教室 〇地域の施設・自然・人材等活用（〇野菜栽培・地域安全マップ） 〇南大泉図書館との連携による図書館活用の推進 〇保育園と連携した学習 〇家庭支援センター・警察・消防署 〇地域活動支援拠点・小中連携 〇子供家庭支援センターとの連携	〇大泉中学校、大泉小学校、大泉東小学校との4校での校区別協議会を通した学習指導、生活指導における情報交換 〇中学校紹介などの交流活動 〇課題改善カリキュラムの活用